

豊島区立南池袋小学校



外観

“共に生き 共に輝こう”を教育目標にかかげる「豊島区立南池袋小学校」2001(平成13)年に近隣の小学校3校が統合し、旧高田小学校を校舎として開校。2004(平成16)年に旧雑司谷中学校跡地の校舎を改築し移転した。



流し

豊島区では、各学校に設置されている水栓の1/3を自動水栓へ取り換えることを決定。手洗いの時は、自動水栓。水飲みやうがい、絵具を洗う、水槽の水を変える時は、ハンドル水栓と使い分けて使用している。



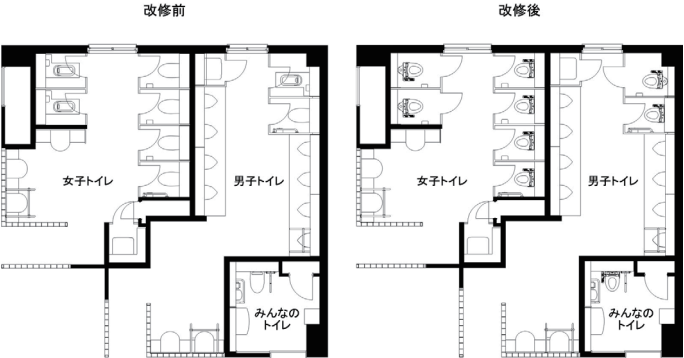
トイレ入口・ベンチ



教室近くに設置されているトイレ。木製のサインが温かみを感じさせる。トイレ入口部分にはガラスブロックを使用。男子トイレと女子トイレの間に、ベンチが設けられており、休み時間に児童の憩いの場となっている。

トイレ図面

今回の改修では、既存の和式便器を洋式便器へ変更し、全大便器にウォシュレットを設置。開校当初から衛生配慮として自動水栓を採用。さらに乾式清掃を行っていたため、においもなくきれいな状態が維持されている。



女子トイレ 洗面コーナー

洗面コーナーの壁にもガラスブロックを使用し、明るい洗面空間を演出。トイレの洗面では、水を飲んだり教材などを洗ったりすることがないため、すべてに自動水栓を採用している。



女子トイレ 大便器ブース

女子トイレは、ピンクが基調となっている。大便器はすべて洋式便器に変更し、ウォシュレットを設置。各トイレには、1ヶ所以上の大便器ブースに手すりを設置している。



女子トイレ 大便器ブース



右は、和洋リモデル工法を用いて改修し、床も張り替えた。左は、15年前の改修で設置された便器に、今回の改修でウォシュレットを設置した。乾式清掃を行っていたため、15年経っても床は当時の状態を維持している。

水まわりの特長

改修の経緯

豊島区では2016(平成28)年より全区立小中学校のトイレを快適なトイレに改修する「学校トイレ緊急改善推進事業」を推進。区内の全小中学校トイレの全洋式化が進められている。そうしたなか同区では新1年生が希望により指定校に隣接する通学区の学校も選択できる「隣接学校選択制」を採用していることもありトイレを含む設備の新しさは学校を選ぶ際の指標のひとつ。今回改修した「豊島区立南池袋小学校」は“共に生き 共に輝こう～豊かな学びとやさしい心元気づけよう夢にチャレンジ～”を教育目標にかかげ2001(平成13)年に高田小学校・雑司谷小学校・日出小学校が統合し旧高田小学校を校舎として開校。2004(平成16)年に旧雑司谷中学校跡地の校舎を改築し移転した。

水まわりの特長

今回のトイレ改修では、既存の和式便器を和洋リモデル工法によりすべて洋式便器へ変更。さらに、前回の改修工事で設置されていなかったウォシュレットを、すべての便器に設置するという部分改修が行われた。またトイレ内の水栓は、衛生配慮の点からすべて自動水栓を採用し、校内各所にある手洗い場では、1/3の水栓が自動水栓へと取り換えられた。手洗いの時には自動水栓を、その他の水飲みやうがい、水槽や絵の具を洗うためにはハンドル水栓を使用。目的と用途に応じて使い分けしている。



男子トイレ 洗面・小便器コーナー



窓も大きく、ガラスブロックを配置していることもありとても明るいトイレ空間。男子トイレはブルーを基調としている。洗面、小便器、大便器ブースに各1ヶ所手すりを設置している。



男子トイレ 大便器ブース



右は、和式便器から洋式便器へ変更しウォシュレットを設置。左は、既存の洋式便器にウォシュレットを新設した。洗浄水には雨水を使用。ウォシュレットで使用する水は、洗面コーナーから分岐している。



みんなのトイレ



けがをした児童などへの配慮として、各階にみんなのトイレを1ヶ所設置。また、保護者や地域の方には、1Fのみんなのトイレや体育館側のトイレを開放している。

建築概要

名称	豊島区立南池袋小学校
所在地	東京都豊島区南池袋3-18-12
施主	豊島区
設計	株式会社ジャパンアセスメントオフィス
施工	建築 株式会社富士建 設備 ユタカ設備工業株式会社
竣工年月	(改修)2020年11月
敷地面積	9947.8㎡
建築面積	2,070㎡
延床面積	8116.39㎡
構造・階数	鉄筋コンクリート造・地下1階、地上4階
おもなTOTO使用機器	
パブリックコンパクト便器・フラッシュバルブ式:CFS494MNHRS	
ウォシュレットP・TCF58*系／棚付二連紙巻器:TH702	
壁付自動水栓:TEL20DS系	